千葉市感染症発生動向調査情報

2019年 第38週 (9/16-9/22) の発生は？

1 定点報告対象疾患（五類感染症）

報告のあった定点数		38週	37週	36週	35週
	小児科	17	18	16	18
	眼科	5	5	5	5
	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	27	26	26	28
	基幹定点	1	1	1	1

上段：患者数
下段：定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市 注意報	千葉市 9/16-9/22 38週	千葉市 9/9-9/15 37週	千葉市 9/2-9/8 36週	千葉市 8/26-9/1 35週	千葉県 9/9-9/15 37週
小児科	RSウイルス感染症		3 0.18	17 0.94	29 1.81	25 1.39	230 1.74
	咽頭結膜熱		4 0.24	4 0.22	11 0.69	13 0.72	29 0.22
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	31 1.82	23 1.28	29 1.81	27 1.50	240 1.82
	感染性胃腸炎		49 2.88	67 3.72	62 3.88	49 2.72	348 2.64
	水痘		4 0.24	2 0.11	4 0.25	2 0.11	22 0.17
	手足口病		48 2.82	62 3.44	67 4.19	47 2.61	282 2.14
	伝染性紅斑		7 0.41	6 0.33	7 0.44	7 0.39	62 0.47
	突発性発しん		9 0.53	12 0.67	9 0.56	8 0.44	65 0.49
	ヘルパンギーナ		8 0.47	33 1.83	22 1.38	16 0.89	132 1.00
	流行性耳下腺炎		3 0.18	1 0.06	1 0.06	0 0.00	12 0.09
インフル	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ（高病原性鳥ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞを除く）	↓	27 1.00	44 1.69	32 1.23	2 0.07	198 0.95
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		5 1.00	4 0.80	13 2.60	9 1.80	23 0.68
基幹定点	細菌性髄膜炎 （髄膜炎菌性髄膜炎を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	5 0.56
	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 （ロタウイルスに限る）		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11

★★：流行中　★：やや流行中　◎：増加　○：やや増加　→：変化なし　↓：やや減少　↓↓：減少

2 全数報告対象疾患（11件）

病名	性	年齢層	診断（検査）方法	病名	性	年齢層	診断（検査）方法
結核	女性	50歳代	IGRA検査	百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出
	男性	70歳代		百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
梅毒	女性	20歳代	血清抗体の検出	百日咳	女性	10歳代	抗体の検出
百日咳	男性	20歳代	抗体の検出	百日咳	女性	40歳代	抗体の検出
百日咳	女性	10歳未満	抗体の検出	－	－	－	－

・第38週は、結核1件（133）、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症2件（10）、梅毒1件（27）、百日咳7件（124）の報告があった。

※ （）内は2019年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数　第38週のコメント

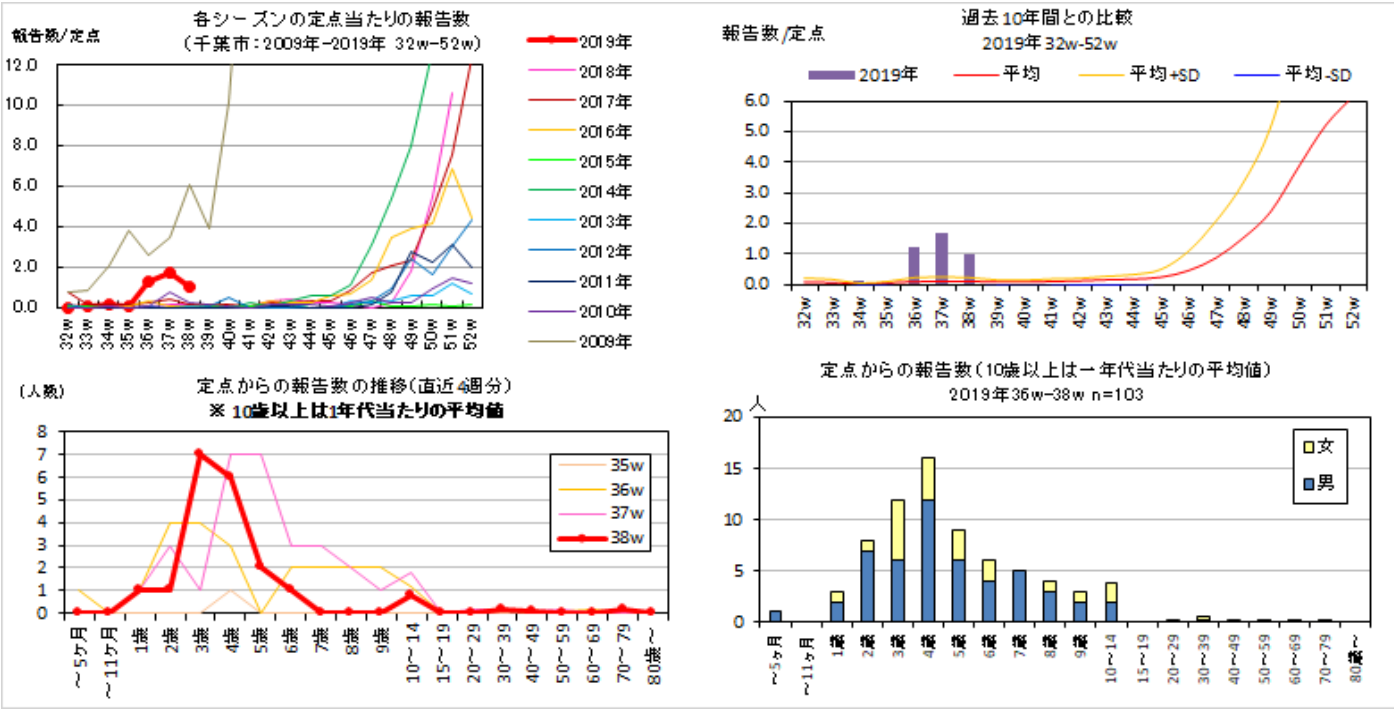
＜インフルエンザ＞前週より減少し1.00となった。過去10年の同時期と比べると2009年のパンデミックを除き最多のまま。

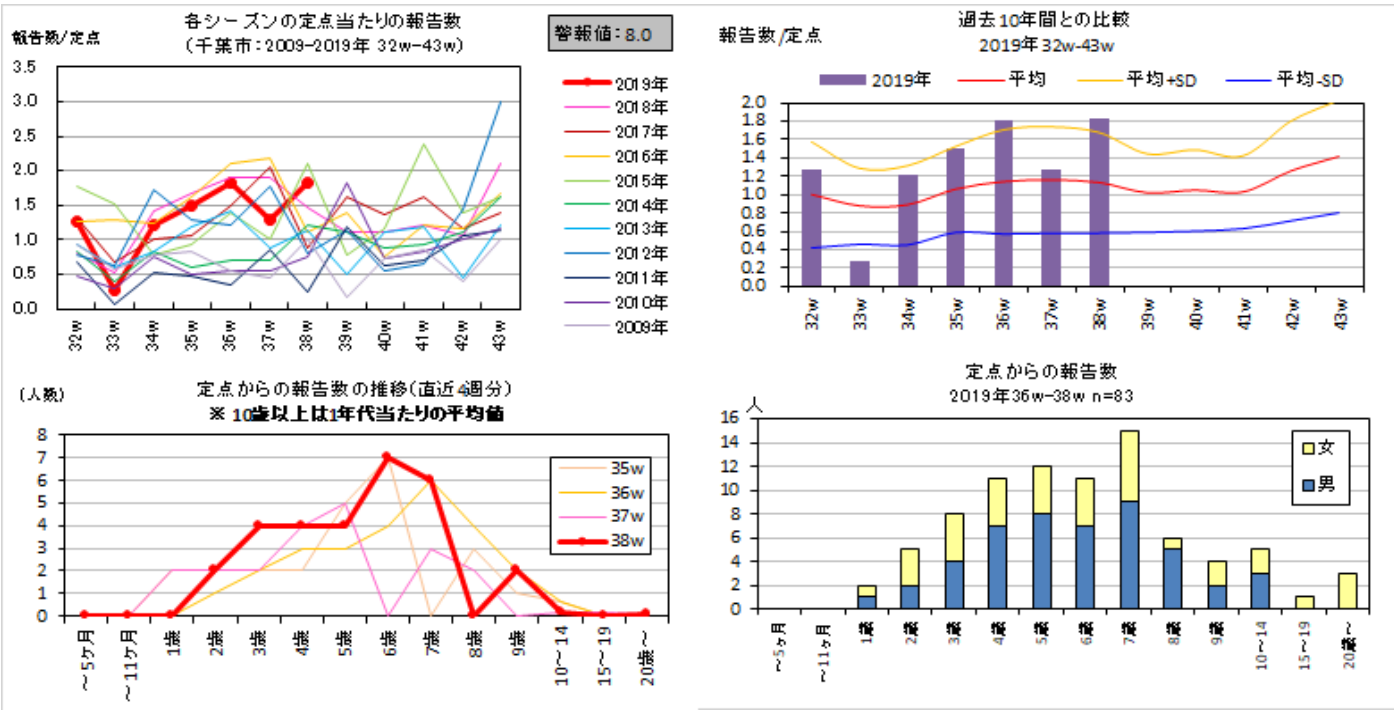
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し1.82となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜インフルエンザ＞

全国レベルの第37週の定点当たりの報告数は1.17となり、流行開始の目安とされる1.00を上回りました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では沖縄県、長崎県、大分県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は0.95で、全国レベルと比べるとやや少なめとなっています。千葉市の第38週は前週より減少し1.00となりましたが、過去10年の同時期と比べると、2009年のパンデミックを除いて最多のままとなっています。区別の発生状況は、緑区（3.00/定点）で最多で、同区の3歳で最も多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第38週までの累積報告数は103件で、性別では男性が62.1%（64名）、女性が37.9%（39名）となっており、年齢階級別では4歳（13.3%：16名）、3歳（11.7%：12名）、5歳（8.7%：9名）の順で多く、20歳未満は全体の83.5%、10歳未満は65.0%となっています。



＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞

全国レベルの第37週の定点当たりの報告数は1.56となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では新潟県、長崎県、大分県の順で多く報告されています。千葉県の定点当たりの報告数は1.82で、全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第38週は前週より増加し1.82となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、緑区（2.75/定点）で最多で、同区の2歳、4歳、5歳、6歳で多く発生報告がありました。今シーズンである2019年第36週から第38週までの累積報告数は83件で、性別では男性が57.8%（48名）、女性が42.2%（35名）となっており、年齢階級別では7歳（18.1%：15名）、5歳（14.5%：12名）、4歳及び6歳（共に13.3%：11名）の順で多くなっています。